

秋田北鷹高生徒
最新の農業機械見学
JA全農あきたが研修会



自動操縦田植え機の実演が行われた研修会

陸斗さん(18)「3年」は「農業の担い手不足解消に役立ちそう。自分の家の農作業でも使ってみたい」と話した。
その後、JA全農あきたの担当者が講師を務めた座学も行われ、生徒たちは全農の役割や県産農産物の流通実態などについて理解を深めた。

(石塚佳治)

最新の農業機械などを学ぶ研修が15日、北秋田市の秋田北鷹高校で行われた。生物資源科の生徒28人が参加。自動操縦田植え機などを使ったスマート農業について理解を深めた。JA全農あきたの主催。

自動操縦田植え機は、衛星利用測位システム(GPS)を搭載。自動で田植えすることが可能で、方向転換やスピードの制御もできるため、省力化も見込める。

研修では、農機メーカーの担当者が自動操縦田植え機やトラクター、コンバインの性能を説明した上で、学校の実習田で実際に動かしてみせた。生徒たちは田植え機が自動走行したり、旋回したりする様子を真剣なまなざしで見学していた。

家が稲作農家という畠山